

体操競技男子・女子共通

- 1, 採点間の練習は, 競技会場の条件によって認めることもある。
今年度は認めない。

ただし, 全国高校総体の体操競技女子予選では, 下記の種目でチーム演技終了後に個人の練習を行う。

段違い平行棒 平均台 以上2種目

- 2, アリーナに入れる者は, 次のとおりとする。

		リーダー	正選手	補欠選手	合計	監督
予選	チーム	1	4	1	8	—
	個人	0	2	0		0～2
決勝	チーム	1	4	1	6	—
	個人	1	4	0	5	0～3

- (1) 監督は, 男女別学校ごとに各1名とする。
- (2) チームリーダーは, 原則として監督が当たることとする。ただし,
ア 予選では, 事情により同じ都道府県の他の学校の監督又は補欠選手のうち1名が当たる
ことができる。
イ 決勝におけるチームでは, 事情により補欠選手のうち1名が当たる
ことができる。
ウ 決勝における個人組では, 関係監督相互の協議により, 1名が当たる
こととする。
- (3) 予選及び決勝でリーダーとならない監督は, 選手の種目ごとの練習及び演技に当たって選
手席に入場することができる。
- (4) 同一校の男子と女子, 又は, チームと個人が同一時間帯に競技するときは, 監督はアリー
ナ内で移動することができる。
- (5) チーム参加で予選通過した個人選手の決勝では, チーム選手の内の1名が前項の監督に代
わって入場することができる。
- (6) 女子ゆかの伴奏のために, 上表のほか, チームでは補欠選手のうち1名が, 個人では同校
の参加選手又は他の参加選手の内の1名あるいは引率責任者が, ゆかの練習及び演技の時間
に音楽席に入場することができる。
- (7) 種目別選手権に出場する場合はリーダー1, 選手1を追加する。

3, 成績順位及び表彰

次の場合は、成績順位及び表彰の対象としない。

(1) 選手が演技すべき種目の全部を演技しなかった場合。ただし、不慮の事故等で種目の棄権があった場合、種目別選手権の表彰対象とする。

(2) チームが演技すべき種目のうち、演技者が3名未満である種目があった場合。

ただし、

ア 0点は得点として認める。(棄権は得点なし。)

イ 競技開始後の棄権の場合にも所定の手続きを行った場合は0点とし、得点として認める。

※所定の手続き(医師・審判長・競技責任者等の証明書)

4, 公開採点はしない。

5, 得点についてはD得点・E得点と最終得点を標示する。

6, 次の場合、採点規則の「不規律な態度」と見なし、下記の減点をする。

(1) ア 選手が学校を示す標識(マーク)を付けていなかった場合。

イ 異なる背番号を付けていた場合。

※当該演技の得点より0.30減点することとする。(1回のみD1審判が減点し、審判長に報告する。その後の種目では減点せず、審判長より未実施の種目のD1審判へその旨連絡する。)

(2) 申告した演技順(オーダー)と異なる順に演技した場合、男子は当該選手の当該演技の得点から0.30を減点することとする。女子は当該種目のチーム得点より1.00減点する。

7 得点に対して抗議することは認められない。但しD得点への質問は、男子の場合各種目ごとにD審判に行うことができる。女子の場合4種目終了後10分までに書面で審判長が受け付ける。

平成 29 年度版高等学校男子適用規則

平成 29 年 2 月 12 日
全国高等学校体育連盟体操部
日本体操協会審判委員会
男子体操競技審判本部

平成 29 年度版高等学校男子適用規則作成のねらい

FIG2017年版採点規則が平成29年1月から施行されることとなった。2006年版採点規則から10点満点が廃止され、DスコアとEスコアの合算による得点決定は4期目となった。今回の規則改定では、技のグループが5つから4つに減ったこと、同じ技のグループから最大5技を行えること、跳馬の跳越技の価値点が概ね0.4低くなったこと、特別な繰り返しが各種目に設定されたこと、ND（ニュートラルディダクション）が増えたことなどが特徴としてあげられる。演技構成や技術、姿勢に関する演技実施についてのEスコアを算出する内容に関してはほぼ変更されていない。ただし、世界の傾向として、より優れた実施、力強い捌きが出現するようになり、これにあわせてEスコアの基準もより厳格に採点されるようになってきている。そのため、技術習得の大事な時期である高校生には、さらなる追求が必要である。

高等学校適用規則は FIG の採点規則を基盤として、成長過程にある高校生の選手育成に影響を与えると推測される箇所を一部変更することにより作成されてきた。例えば平行棒の前振りひねりで倒立位から 45° を超えて逸脱した場合や、つり輪の振動倒立を屈腕で実施した場合には、難度を認定することである。これらの措置は、不完全な実施であっても技を認定することで初心者演技の技数の確保に対応するためである。しかしながら、これらの技は倒立位や伸腕の実施を前提に、順当な序列がつけられるよう対応していただきたい。特に 6 技以下で E スコアの満点が低くなるようなケースでは、行われた技の実施レベルを十分考慮した採点をお願いしたい。また、着地に対する意識を高める目的ですべての難度において終末技の着地をとめた場合、加点することも継続していく。

インターハイの報告書によると、2 年前に設定した「つり輪の力静止技に加点を与える内規」については、その成果が確実に現れている。2017 年版採点規則では終末姿勢が同一の力静止技に対し制限があるため、異なる種類の力技を組み入れることが要求されることになった。長期的な選手育成もふまえ「つり輪の力静止技」に対する加点は継続する必要があると判断した。

オリンピック東京大会を3年後に控え、男子体操競技においてはオリンピックでの連覇が大きな目標であり、年齢的に現在の高校生から3年後の日本代表選手が選出される可能性は十分に考えられる。指導者の方々には、平成 29 年度版高等学校男子適用規則とともに 2017 年版採点規則や関連する男子体操競技情報についても熟知され、日本の体操界を担う高校生の指導・育成にご尽力願いたい。なお、平成 29 年度版高等学校男子適用規則として、ここに取り上げた以外の規則・条項は 2017 年版採点規則が適用される。

体操競技男子

平成29年度版全国高等学校適用規則

次に示すもの以外は、2017年版採点規則（日本体操協会発行）を適用する。

1. 終末技について
 - A 難度・・・・・・・・・・ +0.1
 - B 難度・・・・・・・・・・ +0.2
2. 技の認定と難度の設定について
 - 1) 下記に示す技は、2017年版採点規則とは異なる難度の認定および設定を行う。
ここに示した以外の振動から倒立位になる技は採点規則通りである。
 - つり輪
 - ・ 屈腕ほん転逆上がり倒立（屈腕後方車輪倒立）：C 難度（グループ I）
 - ・ 屈腕後ろ振り上がり倒立（屈腕前方車輪倒立）：C 難度（グループ I）
 - ※屈腕の減点およびその他の減点、伸腕の揃きと同一枠
 - 平行棒
 - ・ 前振りひねり支持 45° 未満：C 難度（グループ I）
 - ※角度減点（0.5）およびその他の減点、倒立位の揃きと同一枠
 - 鉄 棒
 - ・ 足裏支持回転（ひねり）倒立：A 難度（グループ III）
 - 2) 下記の終末技は A 難度（グループ IV）とする。
 - ・ つり輪、平行棒、鉄棒の前方・後方かかえ込み宙返り下り
3. 禁止技について
 - ゆかの宙返り転は禁止技とする。その実施は価値が認められない。
 - 難度表に記されているジュニアルールにおける禁止技を示す●印は適用しない。
4. 加点について
 - あん馬を除く 5 種目において終末技の着地をとめた場合、E 審判によって 0.1 の加点を与える。
5. ゆかの 2 回宙返り技について
 - ゆかにおいて 2 回宙返り技がない場合、0.1 の ND(ニュートラルディダクション)とする。
6. つり輪の力技に関して
 - D 難度以上の力静止技（グループ II および III）に対して、1 技につき 0.1 の加点を D スコアに行う。
 - ※ただし、大欠点を伴う実施は不認定となり、加点の対象としない。
7. 補足
 - 1) つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒において、1 名の補助者をつけることができる。
 - 2) 「服装違反」については、個人に対する減点とし、D1 審判により決定点から 0.3 の減点となる。
 - 3) オーダーミスについては、個人に対する減点とし、D1 審判により最初に間違えた選手の決定点から 0.3 の減点となる。
 - 4) つり輪で着地マットの使用を認める。

体操競技女子

平成29年度版全国高等学校適用規則

1, (公財) 日本体操協会制定採点規則2017年版採点規則 変更規則 I

2, 服装等について

レオタードについて

- ・レオタードのレグカットは腰骨の上になってはならない。
- ・レオタードの前後の襟は、胸骨が半分以上出たり、肩胛骨の下部が出ないこと。
- ・オールタイトのレオタードは認めない。
- ・袖以外に肌色を使用できない。
- ・ただし、レースやメッシュ等の下地に肌色を使用することはできる。
- ・既製品レオタードに、あとからスパンコール、ビーズ、ラインストーン、パール箔（凹凸のあるもの）をつけることは認めない。（ただし、服装業者の既製品カタログにあるレオタードは認める。）
- ・襟（チョーカー）は、身ごろとつながっていなければならない。
- ・セパレートタイプのものは、たとえ練習着であっても禁止する。
- ・団体戦におけるレオタードの統一について
原則としてチームのレオタードは同一のものでなければならない。
小柄模様については、多少の異なりは認める。
大柄模様や配色については、同一とする。
※個人のレオタードは同一でなくても良い。
- ・特別注文（オーダーメイド）については、上記の内容に留意する。

3, 競技情報及び通知については、全国委員長より各都道府県専門委員長への通達を持って採用する。